

## 審判員とコーチへの重要な助言

1. くぐり抜ける場合(くぐり抜けをベースまたは受けの基準として実施する場合)身体のどこかの部位でフープを“止めて”または引っ掛けて受けなければならない；もしフープが床まで直接抜けてしまった場合、これは落下であり要素は無効となる。 [Example](#)
2. AD 要素を 1m 以上リボンの端が床に留まっている状態で実施した場合は無効である(技術的欠点 0.30)。 [Example](#)
3. 1 本または 2 本のクラブでの小さな投げと受けを伴った AD 要素を“座位”基準を伴って実施：ベースも基準も含め全ては#6.1 の定義に、“非常に難しい” / “興味深いまたは革新的”の定義にも沿っていること：(AD 定義の全ての要素に沿うわけではない)。 [Example](#)

## ロープ

### 定義要素：採点規則#6 手具難度参照

#### ベース：#6.3 参照

##### 必須条件：

**#6.1**：最低 1 つのベースと最低 2 つの基準または 2 つのベースと 1 つの基準

有効となるには定義に従ってベースを実施しなければならない(#6.2.3)

[Example 1](#)：ベースは無効(持ち替えが不十分、滑らしがはっきりと見えない)

[Example 2](#)：ベースが不完全(ロープの回転が不完全)

#### 基準：#6.4 参照

##### 必須条件：

**#6.1**：最低 1 つのベースと最低 2 つの基準または 2 つのベースと 1 つの基準

有効となるには定義に従って基準を実施しなければならない(#6.2.3)

[Example 1](#)：回転と視野外の基準が AD となるためには不十分；もし回転が脚の下でしっかりと実施されれば、AD になりうる。

##### 必須条件：

- 手具と身体の間と同調性を保つには技術的に難しいもの、最低 1 つのベースと 2 つの基準または 2 つのベースと 1 つの基準とする

- 興味深いまたは革新的な手具の使い方(新体操の基本的な手具操作でない)最低1つのベース+2つの基準または1つのベースと1つの基準
  - 新体操における手具の基礎技術：素晴らしい多様性を伴ったロープのジャンプ／スキップの正しいベース：これはリズム感のあるロープ演技の基本となる(ADではない)  
[Example 1](#)  
[Example 2](#)  
[Example 3](#),  
[Example 4](#)  
[Example 5](#)
  - 手具と身体の基本的な同調性(技術的に難しくなく革新的でもない)：ADではない  
  
[Example 1](#)
  - ベースと基準の最中に身体と手具の同調性に欠ける(基準のタイミングがベースと同調しておらずADの実施として無効である)  
  
[Example 1](#) (回転前に巻きつけ；回転中は保持/挟んでいるのみ)

❖ AD要素は定義と必須条件に完全に沿っていた場合に有効となる：

[Example 1](#)

[Example 2](#), [Example 3](#) (巻きつけからのほども)

[Example 4](#) (最初のバランス：回転：AD；2つ目のバランスはくぐり抜け操作として有効だがADではなく、不安定な位置での手具操作はBDにとって有効であるがADではない [Example 5](#))